

昭和 地域ニュース

5月号

No. 40
令和3年(2021年)

発行 中野区昭和区民活動センター運営委員会
編集 広報部会 昭和地域ニュース編集会議
〒164-0001 中野区中野 6-16-20
TEL : 03(3368)8164 FAX : 03(3368)8168
E-mail:nakano_showa@nifty.com
http://www.nakano-showa.gr.jp/



我が家のアイドル
保護ネコだった7歳の女の子シマちゃんと5カ月の男の子ナミちゃん。けんかもするけど大の仲良し。
※皆様のアイドルの写真をお寄せください。

中野ブロードウェイ物語

昭和地区は、中野区で一番の繁華街・打越北野天神神社・高層マンション・静かな住宅街を含む、変化に富んだ街です。そんな中で中野ブロードウェイは、中野のランドマークともいえるべき大きな存在です。商店街振興組合理事長の青木武様に、変遷についてお話を伺いました。

■誕生まで

編集部:この辺りはブロードウェイができる前は、どんな場所だったのでしょうか。

青木:道路がなく、空き地、しもた屋、銭湯などがありました。私も空き地で野球をしていました。美観商店街(現中野サンモール)の道路が、今のブロードウェイの南口のところまで止まっていて、右は白線通りからふれあいロードを通して新井薬師の参道に続いていました。左は中野通りに続いていました。美観商店街から昭和通り(現在の早稲田通り)まで続く道路を作りたい、というのが発想でした。

編集部:商業複合施設は当時としては画期的だったのではないのでしょうか。

青木:開発業者の宮田慶三郎さんという方の発案でしたが、先駆的でした。地上10階、地下3階、全長140m、幅45m、高さ31m、約27,000㎡の巨大建築でした。店舗は300~400軒、住宅は280所帯。マンションは大変高価で、入居者は名士や大手企業の重役などVIPクラスが多かったですね。



完成当初の中野ブロードウェイ
なかの写真資料館 HPより

■開業当時の様子

編集部:1966年10月31日に開業されましたが、どんな賑わいだったのでしょうか。

青木:東洋一の施設ということで、大変な賑わいで、大勢のお客さんが見えました。ショッピングセンターを知らない方も多く、興味を持って押し寄せましたね。また、建築関係やマスコミなどの視察も相次ぎました。ただし、開業は見切り発車で、商店はすべて入居しているわけではありませんでした。当時は夜11時、12時まで開いている店舗もあり、戦中戦

1階商店街と屋上庭園



『ブロードウェイ 自主管理
10年のあゆみ』から
昭和59年5月

後の恐怖感も取れ、開放感と活気があふれていました。子どもの多い時代でもありました。

■その後の変遷

編集部:青木さんはずっとブロードウェイを見守られています。どのような移り変わりがありましたか。

青木:「AOKI」かばん店は1950年にふれあいロードで創業しましたが、ブロードウェイ開業と共に移転しました。当時、新宿や池袋には大きなデパートなどが増えましたが、ブロードウェイは大規模店とは違う独自性のある店が多く、大きな影響は受けませんでした。

閉店する店が出始めた1980年頃、「まんだらけ」が出店しました。3~4坪の店舗で始めた古書店が、マニア向けの商品や映画ポスターなど扱うものが増え、似たような店も増え、アニメ文化の勢いもあり「サブカル」の聖地と言われるようになりました。会長の古川益三さんの目の付け所が、素晴らしかったですね。

最近は、買い取りを行うことが特徴の時計店が増え、現在約30店舗です。ブロードウェイは社会の縮図のようで、出ていく人もあるが結構すぐ埋まります。

■これからの課題

編集部:今後のブロードウェイには、どんな課題がありますか。

青木:ブロードウェイの店舗部分は開業以来、2回大改装をしています。2011年の東日



中野サンプラザと中野ブロードウェイ
(同誌より)



青木理事長

本大震災の時にもひびが入ったりはせず、かなり堅牢な建物だと言えます。

今は高齢化により、商店の後継者がいないという問題もありますし、商店街の分担金を負担しない非会員も増え、商店街の存続が危惧されます。

新型コロナウイルスの緊急事態宣言により、お客さんも減りました。特に外国人は減りましたね。ネット販売に力を入れているところは、リスクも少ないようですが、一時金の支給が飲食店だけで、その他の物販店には助成がないという矛盾もあります。

こういう新たな局面では、持久戦に耐えられる体力が必要になります。三密回避のためにイベントも行えていません。早く収束してほしいものです。

今後は、社会の情勢や皆さんの意識の変化を考慮していかなくてはなりませんね。



建設中の中野ブロードウェイ
青木理事長提供

マスコットキャラクターの愛称 大募集!

昭和地域のマスコットキャラクターができました。

文園町会出身のゆりえさんが描いてくださった子犬とメジロです。『昭和地域ニュース』をはじめ、地域のイベントなどで大活躍してくれることを期待しています。

子犬とメジロ、それぞれの愛称を募集します。可愛い名前を付けてください。

◇募集方法:電話、FAX、メール、昭和区民活動センター運営委員会(午前9時~午後5時)の応募箱
※お名前、住所、電話番号もお知らせください。

◇締め切り:5月30日(金)

◇名称発表:昭和地域ニュース7月号

※採用された方には、
記念品を差し上げます。



© YURIE

【昭和地域ニュース No.40 は全戸配布しています。】